

丹羽博士は臨床医であり生化学者です。西洋医学の最先端を学び、試験管上の実験結果を発表するだけでなく研究結果を臨床の場で生かし、数々の成果を上げてきました。

このため、私は、つい丹羽博士はすでに病気になった人を治療し回復かいふくに導くスーパードクターと捉えていました。

ところが、学んだことを振り返り自身でも実践していて気づかされたのは、丹羽博士は早くから治療だけではなく、病気にかかりにくくするにはどうしたらよいかを説く、予防医学の先駆者だったのです。著書のひとつ「水 いのちと健康の科学」の終章2章から必要な部分を抜粋して、その考え方をお伝えします。

第十章

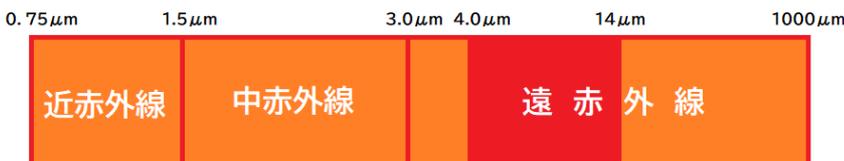
科学の進歩と自然回帰の調和を求めて

294P

筆者は愛児を白血病で、そして抗癌剤の副作用で死なせてしまいました。私は化学薬品を嫌います。憎みます。しかし何度も申し上げますが、西洋医学の教育を受け、現在でも西洋医学の第一線で研究を続けている生化学者であり、医師です。

殺菌剤・殺虫剤・化学薬品の“漫然”とした“長期的”な使用には絶対に反対です。しかし“いざ鎌倉”という伝染病の蔓延や、生命に関する重篤な急性疾患では敢然として化学物質・化学薬品を使います。

一方、慢性の疾患には著者の遠赤外線焙煎・麴発酵の加工処理によって活性化された天然の生薬と、太陽の恵みである4～14ミクロン^{*}の電磁波・遠赤外線放射物質を併用使用し、多くの難病・疾病の患者さんの治療に当たっています。



^{*}人間が発する遠赤外線の波長に近く、波長による共鳴作用により、人体の分子活動がさらに活発化する

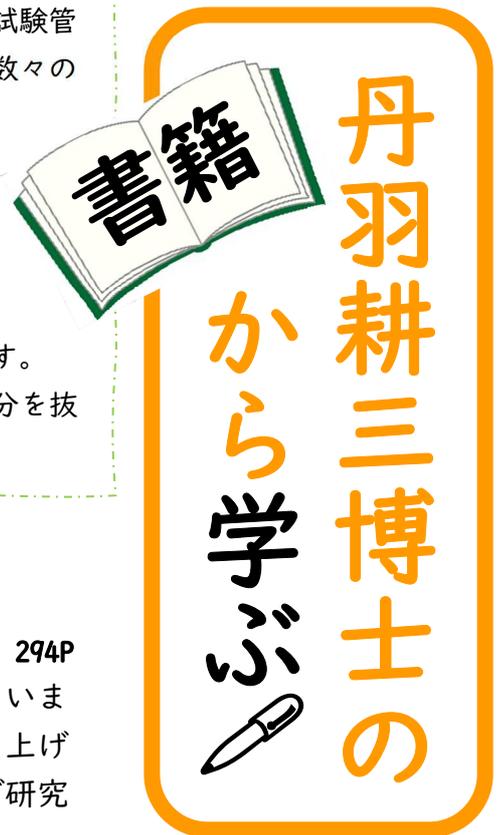
第十一章

真の文明人の治療法と予防医学の神髄

科学・自然回帰・精神の三位一体論

298P

科学者も副作用のない天然の植物・種子の利用を真剣に検討され、その科学の力で天然の生薬の有効物質を活性化させるような研究を発展・完成させていただきたいし、一方、自然回帰の方々にも自分たちの生薬や治療法に科学的な分析を加え、科学者も充分に納得できるような自然回帰の治療法を確立すべきです。



丹羽耕三博士プロフィール



昭和7年大阪生まれ
昭和37年京都大学医学部卒業
京都大学医学博士
土佐丹羽クリニック院長
丹羽免疫研究所所長
令和4年没(享年89歳)

活性酸素とSOD研究の世界的権威。国際医学雑誌に発表された英文研究論文は70編を越す。

西洋医学の限界を知り、自然の植物・穀物から独自の生薬を開発し、全国の診療所でがんや膠原病、リウマチ、アトピーなどに大きな治療効果を上げてきた。

多くの臨床例に裏付けられたユニークな講演には定評があり、学会の座長および招待講演活動が多い。

また、複数の著名な国際医学雑誌への投稿論文の審査員を30年以上務めた。

そして科学と自然回帰の真の調和の上に立った治療法が副作用のない真の治療法であると同時に、恐ろしい環境汚染や薬品公害から人類を救う唯一の方法であると信じます。（中略）

自然回帰の治療のひとつとして下図に示しますように自己管理の必要があり、それには

- (1) 十分な睡眠
- (2) 正しい食事
- (3) 適度な運動

以上の三条件は必要不可欠であり、この三条件が、神様が人間に与えられた生体（自己）の細菌やウイルスへの防御能を高めるための必要条件ではありますが、これにもう一つ

- (4) ストレスを避けることが必要なのです。

このストレスを避けることがすなわち精神・心の持ち方が“病”の克服に必要であり、病気の発症・進行・増悪を考える上において、精神面の病気との関連をどうしても考慮に入れざるを得なくなるのです。（中略）

299P

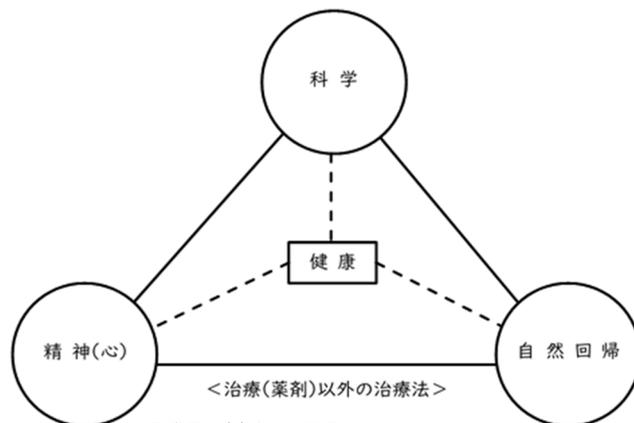
マイナス思考（否定想念……物事を否定的にとらえ悪い方向にばかり考えること）でいるといつも暗く憂鬱な心の状態が持続するため、脳の下垂体（視床下部）にある全身のホルモンの分泌や自律神経への命令系統の機能が低下し、血液の循環も悪くなり、全身の細胞の活動も低下して代謝障害を招き、血中ピルビン酸の増加による血液のアチドージス（酸性化）をもたらしてしまうのです。（中略）

301P

科学と自然回帰に、以上のような(1)～(4)の条件の遵守と精神の安定こそが疾病を減少させ、さらには疾病を未然に防ぐ予防医学の確立のひとつにつながるのです。（中略）

302P

著者の唱える科学・自然回帰・精神の三位一体論を心にし、日常生活における自己管理の徹底・精神面の心の安定を図ることが、現代の環境汚染・薬害から我々の身体の健康を保ち、維持していくために最も合理的で好ましい方法だと思います。そして同時に、国家予算に占める医療費の異常な伸びを抑制するためにも、政府が真剣に取り組むべき問題ではないかと思う次第です。



自己管理：(1) 十分な睡眠
(2) 正しい食事
(3) 適度な運動
(4) 過労・ストレスを避ける

精神面：ストレスの除去
否定想念(マイナス思考)の除去
精神の安定(信仰・瞑想・座禅など)

引用：「水のちと健康の科学」
図表 三位一体論

編集後記

エーオーエーアオバは創業以来、SOD 様作用食品を通して、真の健康を提案してきました。一方、AOVASOD の開発者である丹羽博士は、原因の良くわからない自己免疫系疾患やアトピーやガンの患者さんに、明るい希望を与えてられました。博士と35年ほどの年月と共に歩み、多くの患者さんの笑顔に触れてきた経験から、現代社会の中で真の健康とは何か、今こそ多くの方々と共に学ぶ必要を感じています。博士の書籍は、初版から年月を経たものが多いのですが、少しも古さを感じさせません。今回取り上げた丹羽博士の「三位一体論」など、まさに現代のメンタルヘルズ対策に取り入れてほしい内容です。

前田美恵子【35年に亘り、免疫療法の権威丹羽耕三博士に師事して得た知識をもとに、全国で開催される健康セミナーの講師を務める】